

携帯電話やインターネットに関わる 事件や事故にあわないために

—情報モラル講習—

プロフィール

地域

佐賀県の最東部、福岡県に隣接し、JRや高速道路の分岐点がある。古くから交通の要所として栄えた。人口6万6千人ながらも「全都市・住みよさランキング」全国四位の活気のある街である。

学校

戦後の新制中学校で60余年の歴史。生徒数417名、学級数14、教職員数30名。校区内の小学校3校。生徒も先生も明るく元気な学校で、県レベル以上の活躍をする文化部・体育部がある。

PTA

会員412名。広報・厚生・総務施設・生活指導・母親・学年・地区の7委員会で構成。あいさつ運動はじめ、「中心は子どもたち」の考えのもと、校内・校外の活動を展開している。

1 はじめに

情報化社会とともに子どもたちの生活環境が大きく変化している。携帯電話やインターネットなどが普及し、今までは違った新しい形で、子どもたちを巻き込む多くの事件事故が実際に発生している。

子どもたちを被害者とさせないためには、対応が空白となっている情報化社会の負の部分に正しく対処する必要がある。通話やメール・インターネットの先に潜む危険要素を予知・予測できるように、学校・子どもたち・PTAが一緒になって意識付けの予防教育「情報モラル講習」を行った。

2 活動の企画

活動の企画の流れは次の通りである。

活動内容検討↓危険要素の抽出↓活動決定↓事前準備・実態調査↓活動実施↓終了後検証。

①活動内容検討・危険要素の抽出

運営委員会等を開催し、生徒たちの安全面での取り組みを話し合った。今、子



どもたちを取り巻いている危険要素を出し合い、取り組むべき問題を検討した。

②活動決定・事前準備・実態調査

子どもたちを危険にさらしている問題はインターネットに関連しているのではないかと考え、状況を把握するアンケート調査を行い、実態調査を行った。生徒の携帯電話の所持率、パソコンなどを何に使用しているか、使用の頻度、どういう問題に直面したか、など具体的な問いかけを行い、状況把握に努めた。携帯電話やインターネットは親たちも大人になってはじめて出会った物事であり、子どもに教えると同時に親たちもよく分からない状況がある。校長先生から適切な講師が紹介されたこともあり、具体的対策としては、「講習」という形の活動を取り組むことに決定した。アンケート集計からは、講習では「これだけは伝えなければいけない」というものをいくつも発見できた。

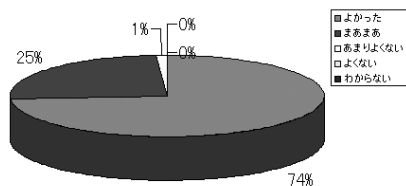
③活動実施・事後検証

情報とモラル講習として、パソコン、インターネット、携帯電話といった情報社会の奥に潜んでいる危険要素について、保護者と子どもたちと先生と一緒に予防教育を受ける機会を設けた。その後今回の講習をアンケート形式で事後検証を行った。

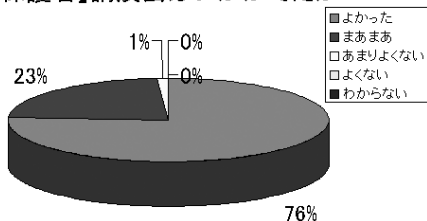


情報モラル講習

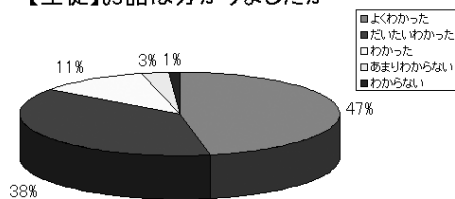
【保護者】講演内容はいかがでしたか？



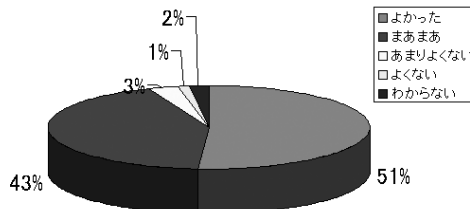
【保護者】講演会はいかがでしたか



【生徒】お話は分かりましたか



【生徒】講演会はいかがでしたか



どもたちの七十%がインターネットをする環境の中、五十%がよく理解できたと回答した。

所期の目的は達成したように思えるが、今回行った取組は予防教育的なものである。これから多くの子どもたちが携帯電話やパソコン等を所持し、インターネットに関わることは避けられないので、五年後、十年後に自分が実際に問題に直面したとき、今回の活動の成果が生きてくるに違いない。

4 今後の課題

中学生の携帯の所持等について各方面でさまざまな議論が進んでいる。私たちの学校では携帯電話の持込みは原則禁止されている。そのような中、本当に問題となっているものは何だろうか。携帯だけが問題ではなかった。携帯電話やパソコンなどを通して、インターネットに入り、各種の情報等に関わる上で、その奥に潜むもの、それが問題となっている。それを子どもたちや保護者にまず理解してもらえるよう講習という形で今回は取り組んだ。

これからの課題、もしくは今現在の課題といえるのは、議論が携帯電話だけに特定しつつかあることだ。携帯電話がインターネットへの端末であるようにパソコンもまた端末である。私たちの学校の生徒の携帯電話所持率をみても分かるように、携帯電話を全員が所持しているわけでもない。しかしながら、パソコンを使用し、いつでもインターネットに接続できている家庭はすでに七十%を越えている。今後の課題は、携帯電話に特定する議論することでは

ない。各種のインターネット端末を使用して知りうる、または関わる情報の中に、危険な要素が潜んでいることを子どもたちに伝えることが肝心である。それらの予防教育を継続できることが課題といえる。

展 望

激変する現代社会にあつて、子どもの健全育成上の大きな課題である「携帯電話やインターネットの事故防止」のため、PTAが積極的・適切に取り組んだ実践事例である。この事例で特筆すべきは、「活動内容検討↓危険要素の抽出↓活動決定↓事前準備・実態調査↓活動実施↓終了後顕彰」の流れに見える企画性の見事さである。また、テーマに関する実態分析から、親と子どもの状況把握に違いがあることに着目し、親子別々の講習を実施等に配慮し、その適切な諸資料も紹介されていて参考になる。今後とも各種インターネットに関わる事故の予防教育を継続されることを期待される。